

● 令和元年度第2回放送番組審議会

■ 開催日時

令和元年12月17日（火） 12：20～14：15

■ 開催場所

秋田ケーブルテレビ 会議室

■ 出席委員（7名）

放送番組審議会会長 加藤 卓哉  
 放送番組審議会副会長 景山 陽一  
 放送番組審議委員 服部 洋之  
 伊藤 智  
 永瀬 幸子  
 清水川 裕一  
 北澤 孝助  
 （順不同・敬称略）

■ 事務局出席者

代表取締役社長 末廣 健二  
 取締役兼コーポレート本部本部長 飯塚 雅子  
 クリエイト本部長 高橋 伸明  
 クリエイト本部マネージャー 斉藤 洋樹  
 クリエイト本部リーダー 小林 拓也  
 TEAM CNA CREATION 檜垣 賢次  
 TEAM CNA CREATION 福田 伸  
 TEAM CNA CREATION 樋渡 大基  
 コーポレート本部リーダー 伊藤 慶子  
 コーポレート本部 石岡 美香

■ 議事

- ・事務局からの報告事項
- ・自主放送番組についてのご意見

■ 視聴課題番組

番組名
①コミエフ連携番組 1.ばんげだい椿台 2.あこちゃんのこたつでみかん 3.NAKAICHI Upcomer Array 4.Fun@Yutopia 5.ニコニコ吹奏楽
②走れ！高所作業車！ 秋田と気仙沼200kmの絆
③ALL-Aチャンネル ALL-AサポーターがCNA囲碁大会を撮影
④千代田区×五城目町 街を結ぶ想い～ハバタク、丑田俊輔さんの場合～

■ 放送番組審議委員からのご意見

【①コミエフ連携番組】

- ・今回視聴した4番組全体を通じて、物事をつなぐというメッセージ性を感じた。
- ・秋田にこれだけのコミュニティFMの番組があることが知らなかった。
- ・年配の人だとAMやFMのラジオを聞いているので各局の連携した番組はいい。
- ・普段ラジオを聴く場合、パーソナリティの顔を思い出して聞いているが、映像で見ることで身近に感じた。
- ・定点カメラなので途中で飽きてしまった。
- ・ラジオは聞くしかなかったが、見るということで感覚が全然違う。
- ・椿台エフエムなどは秋田を感じさせるいい番組。
- ・絆を感じた。番組のヘビーリスナーからするとDJの顔が見れるのでマニアにはうれしい。
- ・固定カメラなのでYouTube的な感覚で、逆に若い人は慣れている。これからの可能性があると感じた。
- ・音楽や落語など動きがないものに着目して企画したら、もっといいのではないか。
- ・パーソナリティに知っている人が出ているのがよかった。
- ・有事の際に力を発揮する。映像を撮っておきながらCNAがハブになってやること、取り組みがおもしろい。
- ・定点カメラだけごちゃごちゃ感が感じられて、音だけではなく映像から伝わるものがある。

【②走れ！高所作業車！ 秋田と気仙沼200kmの絆】

- ・震災に対して復興支援をし、絆が深まったなど、こういういい話をもっと宣伝してもいい。もっとPRして県民のみんなが自信をもていい。
- ・東日本大震災での被害があったのに感動的な番組だった。今回視聴した4つの番組なかで一番食い入るように見た。
- ・高所作業車を貸し出した以外にどんな支援が必要だったのか知りたかった。ラストのインタビューコメントは心から感謝しているのが見えたため感動を覚えた。
- ・「心」や「繋がる」などのワードなど色々な人の思いが伝わってきた。単発ではなく、今後も作ってほしい。
- ・車に乗って話しているのが映画的なセリフで、言い切ったところなどが信頼感が垣間見えた。
- ・ラストで、使われなくなった作業車がCNAに戻ってくるシーンはよかった。
- ・東日本大震災は、今後風化していくので震災についての番組等は続けていくのが大事。最初の「避難」などの音声やテロップは必要だったか疑問。
- ・技術的に撮るだけではなく、気持ちがかもっていたり、モチベーションだったり、魂が入っているかどうか。
- ・気仙沼ケーブルテレビの社員が照れずに本気で言っている言葉をいい技術で撮っている。
- ・気仙沼ケーブルテレビの社員が「ケーブルが断線したがUHFをつけて見せたい」と言ったところが放送人として感動した。
- ・地域の人とコミュニケーションをとれているのが感じた。

【③ALL-Aチャンネル ALL-AサポーターがCNA囲碁大会を撮影】

- ・若い人から見たら固くなるかもしれないが、高齢者が見る番組だと違和感はない。
- ・2人のディレクターが小学生に焦点を当てていたが、番組としてテーマを視聴者に伝えるようなものがあつたほうがいいのではないか。
- ・囲碁はやったことがないが興味がないものを見るというのが新鮮。碁盤がもっと近ければいいなど、撮っている感覚で見た。
- ・高齢者が何かつくるのはとてもいい。もっとたくさん高齢者が何かを作る機会があつてもいい。
- ・最初は見ているのが苦痛だったが今後可能性がある。寄りも引きも感じられる。音も視聴者が見て耐え難いが、同じようなことを新潟県が力を入れている。
- ・新潟では子供たちが監督や脚本をしてやっている。ALL-Aはお年寄りだが、若者でもいいので裾野を広げていくことで広がりがあるのではないか。
- ・高齢者が番組を作る等のこういったものをもっと出してほしい。文化的やスポーツ的なものを取り上げることが大事。仕組みをつくる。
- ・取り組み自体がすばらしい。専門的にいくと、今後はAIにカメラを任せておくとインタビューができてしまう。
- ・AIに頼る部分とは別に人間として今後どう接していくか。親近感やなごみが大事。

【④千代田区×五城目町 街を結ぶ想い～ハバタク、丑田俊輔さんの場合～】

- ・繋がりをうまく表現している。地域のいい部分をうまくとらえている。
- ・もっと五城目などの地方が好きというファンを増やして、その人たちが成人したときにその地に行ってみたいと思うことが大事。
- ・地域の人や県外の人が定住したいと思わせることが大事。森・山が象徴なので、都会の人が見ると憧れる映像だった。
- ・2年に一度、五城目で運動会をやっているが、千代田区からも来ていて各年で交流している。
- ・ぜひ町民の方にもこの番組を見ていただきたいと思う。丑田さんは五城目町を発信している人なので、この人を取り上げることが良かった。
- ・年々、田舎の良さが分かってきたので、こういった番組がもっとあつてもいい。
- ・友好都市など、分からない人がほとんどなのでこういった友好都市について番組でやることは大事。
- ・こういった思いがある人が移住までして成功する実績がある。姉妹都市などもっととりあげていただければいい。
- ・丑田さんの街の交流を活発化させる活動が短く終わらないで続いてほしい。地域の少子化など言われているが、心をもってやっているかどうか。
- ・丑田さんは人と人を繋げることができる人だと感じた。
- ・番組の中身自体、とてもよい番組だった。